

大きな河と魔神のランプ

■神殿にいる人たち

姫さま … 砂漠の国のお姫さま。お祈りをするのが仕事。
護衛隊長 … お姫さまの護衛隊長で幼なじみ。部下は本当はいっぱいいる。

■革命軍な人たち

リーダー … 革命軍のナゾのリーダー。姫さまと護衛隊長の幼なじみ。
革命軍1 … 革命軍のサブリーダー。とりあえず、もりあがるのが好き。
革命軍2 … 革命軍のメンバー。たぶん、革命軍で一番まとも。
革命軍3 … 革命軍のメンバー。たぶん、あんまりなにも考えてない。

■町に住んでる人たち

町長 … 町の町長。姫さまと革命軍、どっちの味方をするかなやんでいる。
副町長 … 町の副町長。やっぱりなやんでいるけど、こまっではいけない。
町の人1 … 町の本屋さん。魔神のランプの話を読んだことがある。
町の人2 … 町の学者さん。魔神のランプの話聞いたことがある。
少年 … 町の少年。あんまりしゃべらない。
少女 … 町の女の子。お姫さまのことが好き。



司会の人 … みなさんは、アラビアン・ナイトというお話を知っていますか？ むかしむかし、砂漠の中のある国に、とてもらんぼうな王さまがいました。みんなは王さまのらんぼうにこまっっていました。あるとき、王さまのところへ、とてもかしこいお姫さまがやってきました。そして夜ごとにふしぎなお話をしてあげたのです。そのお話に夢中になった王さまは、だんだんとらんぼうをしなくなり、最後にはとてもやさしい王さまになりました…というお話です。これからはじまるお話は、ひよっとすると、そのアラビアン・ナイトの中の一つかもしれない物語。ある砂漠の国で起こった、とてもふしぎなお話です。

幕が上がると、お祈りをしているお姫さまの姿が見える。

司会の人

その国には一人のお姫さまがいました。お姫さまのお役目は、みんなの幸せを祈ることでした。ところがその年は長いこと雨がふらず、井戸はからっぽ。みんな、のどのかわきにくるしんでいました。でも、お姫さまがどれほど祈っても雨はふりません。とうとうガマンができなくなつた人々は剣をとり、この国を変えようとする革命軍と、お姫さまを守る護衛隊の戦いが始まったのです。

護衛隊長が神殿に入ってくる。

S 1

神殿・祈りの間

護衛隊長

姫さま…。

姫さま

……。

護衛隊長

お祈りの最中、もうしわけありません。革命軍が神殿にせまっています。脱出の準備を。

姫さま

……。

護衛隊長

…そうですか。信じておられるのですね、神様のご加護を。では、わたしはわたしの仕事を…。

姫さま

ぐー。

護衛隊長

……。

姫さま

……。

護衛隊長

わたしは、わたしの仕事をやるだけです。必ずお守りしますので、どうか…。

姫さま

ぐー。

護衛隊長

どうかお心を…。

姫さま

おだやかに…。

護衛隊長

ぐー。

姫さま

こちらっ！

護衛隊長

うわっ、びっくりした！

姫さま

なに寝てるんですか、人がまじめに話をしているときに！

護衛隊長

ふわあ…。

姫さま

アクビしない！ だいたい姫さまは昔から、責任感がなさすぎます。いいですか、姫さまたるもの、朝はちゃんと起きて、規則正しい生活をして、

護衛隊長

神様のためにクドクド、クドクド…。

姫さま

ぐー。

護衛隊長

こちらっ！ だから、寝てる場合じゃないんですよ！

姫さま

あ、なんかあった？

護衛隊長

革命軍が、とうとうこの神殿にまでせまってるんです！

姫さま

革命軍が？

護衛隊長

ですから、どうか早く脱出を！

姫さま

……。

護衛隊長

……。

ドカーン！

護衛隊長

いけません、門がやぶられました！

姫さま

えーっ！ ちよ、ちよっ！ いつもよりハデじゃない？

護衛隊長

だから大変だって言ってるんですよ！ さあ、逃げましょう！

護衛隊長、姫さまをつれて神殿から逃げていく。

S 2

神殿の前

革命軍と町の人たちが、神殿の前に集まっている。

革命軍 1

あたしたちは？

革命軍たち

革命軍！

町の人たち

イエーイ！

革命軍 3

ねえねえ、ところでさ、なにを革命するんだっけ？

革命軍 2

バカねえ。決まってるでしょ、革命っていったら、

革命軍 3

革命っていったら？

革命軍 1

打倒、権力！

みんな

打倒、権力！

革命軍 1

そう、権力をぶちたおすのよ！

町の人たち

おーっ！

革命軍 3

でも、なんで？

革命軍 2

バカねえ。権力っていうのは、いつだってワルいものだからよ。

町の人たち

おーっ！

革命軍 1

だいたいね、水不足をお祈りでなんとかしようなんて、あまいのよ。今の時代、ビジネスよ、ビジネス。水もビジネスで手に入れなきゃ。

町長

さすがですね、ひなたさん。

副町長

考え方が革新的。

革命軍 3

でも、ビジネスってことは、なにかを売って、ほしいものを手に入れる

んだよね。

革命軍 2

そうよ、当たり前じゃない。

革命軍 3

なに、売るの？

みんな

……。

革命軍 3

だってここ、砂漠しかないよ。

革命軍 2

…砂？

みんな

いやいやいや。

革命軍 1

ま、そこは革命すればなんとかなる！

町の人たち

おおっ！

町長・副町長

思った以上に無計画！

革命軍 1

ということ、まずは税金のムダ、王室をたおすのよ！

町の人たち

おーっ！

護衛隊長、出てくる。

護衛隊長 待ちなさい！

革命軍2 あ！あなたは！

みんな 護衛隊、隊長・（護衛隊長役の子の名前）！

護衛隊長 この先は、姫さまの大事な祈りの間。行かせるわけにはいかないわ。

革命軍3 うわー、コワイのが出てきた。

革命軍1 だいじょうぶよ、志があれば、たおせない敵はない！行け、革命軍！

革命軍2・革命軍3 えー！ー！っ！

革命軍2・3、護衛隊長にあっさりやられる。

革命軍2・革命軍3 やられたー！ー！

町の人たち あっさり！？

護衛隊長が町の人たちをキッとにらむと…。

町長 よっ、さすが隊長！

副町長 お強い、お強い！

町の人たち、手のひらをひっくり返して、護衛隊長をはやし立てる。

革命軍2 ひなたさん、どうしましょう！

革命軍1 うーん、どうやらここらが引きぎわね。

革命軍2・革命軍3 え、戦わないの！？

革命軍1 残念だわ、あと少しで魔神のランプが手に入ったかもしれないのに。

町の人たち 魔神のランプ？

護衛隊長 あなた、なんでそれを！王さまの秘密なのに！

革命軍1 なんてって、ふっ、決まってるでしょ。…がんばったのよ！

町の人たち おーっ！

護衛隊長 …いや、そういうことじゃなくて。

革命軍1 それ以上は言えないわ。だいじょうぶ、みんなの犠牲はムダにはしないから。

革命軍2・革命軍3 え、助けてくれないの？

革命軍1 じゃ、あたしはこれで！

護衛隊長 待ちなさい！

護衛隊長が革命軍1を追いかけようとした時、その前に革命軍のリーダーが出てくる。

革命軍1 リーダー！

そこまです。

革命軍たち
リーダー！

革命軍たち、革リーダーの後ろに整列する。

町の人1
あれがリーダー…。

町の人2
革命軍の指揮官でありながら、けっして姿を見せなかったナゾの男…。
革命軍たち
女よ。

町長
ナゾの女！

副町長
かっこいい！

護衛隊長
それがまさか、あなただったとはね。

少女
隊長さん、知ってるんですか？

護衛隊長
ええ、ちよっとね。

町の人たち
いみしーん。

革リーダーは護衛隊長の前に進み出て、

革リーダー
久しぶりね、（護衛隊長役の子の名前）。

護衛隊長
なにも言わずに国を出て行ったかと思ったら、革命軍のリーダー？ 元護衛隊長のあなたが？

革リーダー
この国を変えたくて。

護衛隊長
変える？

革リーダー
外の世界に行ってわかったのよ。この国は間違ってるって。だから戻ってきたの。

護衛隊長
そう。あなたもこいつらと同じ考えてわけね。

革リーダー
…。

護衛隊長
約束したじゃない。わたしたち、二人で姫さまを守っていきこうって。そのあなたが…あの約束を忘れたの？

革リーダー
覚えてるわ。だから、戻ってきたのよ。

護衛隊長
だから？

町の人たち
またまた、いみしーん。

革リーダー
話はあとよ。神殿を開放して、姫さまを渡しなさい。

護衛隊長
ねらいはランプってわけ？

革リーダー
…。

護衛隊長
悪いけど、お断りよ。わたしは、一人でも姫さまを守る。

革リーダー
明日の朝まで、返事を待つわ。もし、それでも答えが変わらないなら…。

護衛隊長
戦うしかないわね。

護衛隊長と革リーダー、去っていく。

革命軍1
答えが変わらないなら、

革命軍2
戦うしかないわね。

みんな
カッコいいい！

革命軍たち、おいていかれたことに気づいて、

革命軍3 あ、待ってください！

革命軍たち リーダー！

革命軍たち、革リーダーを追って去っていく。

S 3

町の中

町の人たち、辺りをキョロキョロと見回して、護衛隊長も革命軍もいなくなっただことを確認する。

町の人1 行った？

町の人2 行った行った。

副町長 うーん、なんかフクザツな展開になってきたわね。

少女 ねえ、どうするの？

町長 どっちにつくか、なやむとこだよね。やっぱり、僕たち罪のない一般市民としてはさ、絶対勝つ方について、ケガせず、がんばらず、なんにもしないで勝利をおさめたいよね。

町の人たち うんうん。

少女 えー、それってひどくない？

町長 ひどく…。

町の人たち ないない。

副町長 おぼえときなさい。大衆っていうのは、いつの世もザンコクなものなのよ。

町の人たち ふかーい。

みんな、感動。

少女 それでさっき言った、魔神のランプってなに？

町の人1 決まってるじゃない。こするとジーニーが出てきて、願いをかなえてくれるのよ。

町の人たち おー。

町の人2 わたしのしらべたところでは、この広い砂漠のどこかに、洞窟の入り口がああって、

町の人たち アラビアンナイト！

町の人1 ひらけ、ゴマ！ っていうと入り口があいて、

町の人たち アリババと四十人の盗賊！

町の人2 中にはなんでも願いをかなえてくれる魔神のランプが…。

町の人たち アラジンと魔法のランプ！

少女 てことは、やっぱり空飛ぶじゅうたんも出てくるの？

町の人1 当たり前じゃない。空飛ぶじゅうたんのないお話なんて、つまんないもの。

町の人2 でも知ってる？ アリババもアラジンも空飛ぶじゅうたんも、アラビアンナイトのお話じゃないって。

町の人1 そういう細かいツッコミはいいのよ。王道はつねに正義なのよ。
町の人たち ふかーい。

みんな、感動。

町の人2 で、その魔神のランプを…。

町の人1 そう、その魔神のランプを、

町の人たち うんうん。

町の人2 昔、この国の王さまが、

町の人たち うんうん。

町の人1 手に入れたらしいのね。

ガクッ。

少女 え、もう手に入れてるの？

町の人2 ランプの力で王さまになれたのよ。

町の人たち ははーん。

町の人1 で、この神殿のどこかにランプをかくしたってウワサがあるのよ。

町の人たち ははーん。

町長 じゃ、やるべきことは決まったね。

副町長 ええ、そうね。

少年 どういうこと？

少女 さあ？

町長 まずは、革命軍の味方をしよう。

副町長 ほら、ああいう連中って、だいたいちょっとアブナイから、さからうとなにされるかわからないじゃない？

町の人たち ああ。

町長 で、そのまま革命軍が勝てばよし、もし護衛隊が勝ったら、

町の人たち 勝ったら、

副町長 すぐにあやまる！

町の人たち だまされてたんです〜！

副町長 カンペキね。

町長 で、もし、もし、もっとうまくいくなら、

町の人たち いくなら？

副町長 あたしたちがランプをゲット！ 王さまに！

町の人たち おーっ！

少女 でも、この中のだれが王さまになるの？

みんな、顔を見合わせる。

町長

今は考えるのをやめとこ。ケンカになるから。

副町長

そうね。そうと決まったら、戦いの準備！

町の人たち

おーっ！

みんな、広場を出て行く。

町の人1・2、歩きながら、

町の人1

それにしても…。

町の人2

のどかわいたなあ…。

S 4

町の広場

夜。

だれもいなくなった町の広場で、少女は一人、お祈りをしている。

少年、それを見ている。

少女

神さま、お願いします。どうか雨をふらせてください。みんな、のどがかわいてこまっています。おねえちゃんたちは、ケンカもしています。

だから神さま、どうかお願いします。雨をふらせてください。

なにしてんの？

お祈りしてるの。

なにを？

雨がふりますようにって。そうすれば、みんなケンカしなくてすむかな、

と思っ。

少年

それは姫さまの仕事だろ。他の人はそういうことしちゃダメだって、隊

長さんが言ってたじゃないか。それが決まりなんだって。

でも、一人じゃ大変だと思っ。

少女

姫さま、出てきて二人の様子を見ている。

少年

…あのさ、本気で信じてる？ お祈りなんかで雨がふるって。

少女

わからないけど、ほかにできることがないから。それにね、お祈りして

ると、自分が大きくなったような気がするんだよ。雨はふらないかもし

れないけど、だれかのためになにかをしてる、って思うと、イライラな

んかしなくなるよ。

そうなの？

うん。

ふーん…。

少女

だからみんなも、お祈りすればいいのに…。

少年

じゃあさ、オレもやってみるよ。

少女 ありがとう。

二人、ならんで手をあわせる。

少女・少年 神さま、お願いします。どうか雨がふりますように。

護衛隊長、出てくる。

護衛隊長 やめなさい。

少女 隊長さん。

護衛隊長 神さまにお祈りをしていいのは姫さまだけだって、何度も言ったでしょう。これは昔からの決まりなのよ。

少女 でも、

護衛隊長 でもはなし。あなたがお祈りをしたせいで、神さまがおこって、もっと雨がふらなくなったらどうするのよ。よけいなことをしないで。

姫さま そんな言い方…。

護衛隊長 わかった？

少女 ……。

少女、だまっただまま、広場を走って出て行く。

少年 なんだよ、それ。

護衛隊長 ……。

少年 みんなが戦わなくていいようになってお祈りしてるのに、よけいなことって言い方あるかよ。

護衛隊長 何度も言うけど、これは決まりなの。それを守るのが、わたしの役目なの。

少年 決まりだったら、だれかを泣かせてもいいのかよ。

護衛隊長 ……。

少年 姫さまもそう思ってるのか？

姫さま わたしは…。

護衛隊長 姫さま。

言いかけた姫さまを、護衛隊長はささげさる。

姫さま ……。

少年 わかったよ。もついい。オシ、今日から革命軍に入る。お前らなんかについていけるかよ。

少年、走っていく。

姫さま

どうして？

護衛隊長

……。

姫さま

どうして、あんなことを言ったの？

護衛隊長

わたしは護衛隊です。この国と、この国のルールを守るのが仕事です。

姫さま

わたしには、その生き方しかできません。

……。

護衛隊長

古いものには意味があります。今のわたしたちにははっきりとわからなくとも、そうなった理由がきつとあるんです。わたしは、わたしのお父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、そのずっと前の前の人たちが作ったものを信じます。みんなが正しい人たちだったと信じます。

……。

姫さま

それは、悪いことでしょうか？

護衛隊長

そうは言わないけど、もつちよつと、なんていうか、フレキシブルにね？

……。

護衛隊長

ムリ、か。昔っから、ガンコだもんね、（護衛隊長役の子の名前）は。

……。

姫さま

仲よかったよね、わたしたち三人。わたしと、（護衛隊長役の子の名前）と、（革リーダー役の子の名前）。わたしが祈りをお役目を始めるまでは。

……。

護衛隊長

ねえ、あの日のこと、おぼえてる？ わたしが神殿に入る日、あなたと（革リーダー役の子の名前）は護衛隊になった。あなたたちは二人で、

姫さま

姫さまを守るとちかいました。

……。

護衛隊長

おぼえてるよ。わすれるわけじゃない。まだ小さかったころ、いつも一人でいたわたしに、あなたたちは声をかけてくれた。友達になってくれた。だから、わたしは二人のためならなんでもするって決めたの。今のあなたにとって、わたしはなに？ 友達？ それとも、ただのお姫さま？

姫さま

護衛隊長は、ちよつとの間、答えに困る。

護衛隊長

…姫さまです。

その答えに、姫さまはさびしそつに笑う。

姫さま

どうしてこんなことになっちゃったんだろう。わたし、なんのために毎日お祈りしてきたんだろう。みんなを幸せにするためのはずだったのに、祈れば祈るほど、みんながバラバラになっていく気がする。

……。

護衛隊長

あなたは本当に信じてる？ わたしの祈りで、みんなが救われるって。

はい。

護衛隊長

本当に？

護衛隊長 …はい。
姫さま そっか。だったら、信じなきゃね。わたしも、あなたのこと。だけどね、この戦いが終わって、わたしが祈りすることをおまじらめても、おこひないでね。

革リーダー、出てくる。

革リーダー さあ、時間よ。

護衛隊長 ……。

革リーダー 答えを聞かせて。

護衛隊長 何度聞かれても変わらないわ。わたしはこの国を守る。姫さまは渡さない。

革リーダー だったら決まりね。

護衛隊長 ……。

革リーダー わたしもひくわけにはいかないの。この国のために…(姫さま役の子の名前)のために。

護衛隊長 ……。

革リーダー さあ、戦いの、始まりよ。

S 5 町の外・砂漠

街の外の広い砂漠の中、護衛隊長と革命軍が向かい合っている。その戦いを見守っている町の人たち。

革命軍1 ついにこのときがやってきたわね。

町長 このとき…それってつまり…。

革命軍1 直接対決！

みんな おおっ！

革命軍2 最終戦争！

みんな うおおっ！

革命軍3 決着のとき！

みんな うおおっ！

革命軍1 なんととってもかまわないけれど、つまりはそういことよ。

副町長 どうやって決着をつけるのかしら？

町の人1 やっぱりここは全面戦争で…。

みんな こわい！

町の人2 隊長同士の対一の決闘は？

みんな カッコいい！

町長 やはり理性ある大人として、話し合いで決めるといのは…。
地味…。

みんな 姫さま、みんなの間に割って入る。

姫さま　いいえ、ちがうわ！

みんな　姫さま！

姫さま　勝負の方法はわたしが決めます。文句ないわね？

みんな　でも…。

姫さま　えー、なんでなんでなんで？ わたしは姫よ？ 姫さまよ？ 一番えらいの

よ？ 文句ある？

みんな　…ないです。

姫さま　じゃ、どんな方法でも文句言いつこなしよ？ やっぱヤダ、とか、ダメだからね？

革リーダー　わかったから、なによ。

姫さま　ふっふっふっ…。勝負はズバリ！ この国にある、魔神のランプを先に手に入れたほうが勝ちよ！

出たーっ！

みんな　姫さま、なんてことを！

護衛隊長　魔神のランプ…。

町の人1　やっぱりあるんだ！

副町長　やっぱりやっぱり、あの神殿に…？

姫さま　残念だけど、そんなわかりやすいところにはないわ。

えーっ！

姫さま　魔神のランプのありかは…この砂漠のどこかよ！

姫さま、砂漠をビシッと指さす。

みんな、目が点になる。

みんな　…は？

姫さま　だーから、砂漠のどこかをほると、地下神殿への入り口があるって、聞いたことがあるのよ！ きつとそこよー！

すごい！

革命軍たち　ほってみよう！

姫さま、護衛隊長、革リーダー以外のみんな、必死に砂漠をほり始める。

護衛隊長　…あのね、姫さま。

姫さま　なあに？

革リーダー　この砂漠のどこかって、砂漠、めちゃくちゃ広いのよ。

姫さま　そ、そうね。

護衛隊長　そんなの、何年かかるか分からないじゃない。

姫さま　そ、そうね。

革リーダー　本気？

姫さま、あせる。

姫さま ば、バカねー！ 計算通りよ！

二人 はあ？

姫さま よ、よつするにこのケン力は、いつまでたっても終わらないってことよ。

二人 だから、はあ？

姫さま (せきばらい) 教えてあげるわ。わたしがお父さまから受け継いだ、国を治めるときの最終必殺奥義。

二人 最終必殺奥義？

姫さま 奥義！ 困ったことは、先送り！

ガーン…。

姫さま

まあさ、わたしとしては仲直りしてほしいわけだけど、そうはいつでもなかなかうまくいかないのが人間関係ってヤツだし、だったらやる気もなくすようなどうしようもない戦いをずっと続けるのが一番なんじゃないかなって。

二人 あんたねえ…。

姫さま だいたいさ、このひろーい砂漠の中から、あるかどうかわからない入り口を探すなんてさ、

革命軍2 あ、なんかあった。

姫さま そんなうまい話が世の中ころがってるわけないしさ、

革命軍3 あ、扉だ。

姫さま ていうかそもそも地下神殿って、この時代に、言葉自体がナンセンスよね。

みんな うわー！ 地下神殿だ！ すっげー！

姫さま ……。

革リーダー …あったわね。

姫さま そうみたいね。

革リーダー じゃ、ランプを手に入れたほうが勝ちってことで、文句ないわよね、姫さま？

みんな、姫さまに注目。

姫さま …ないわよ。

みんな、歓声。

町長

それってつまり、この中のだれが手に入れても、その人の勝ちってことだよ？

姫さま そういうことだけど…。

みんな …てことは……。

副町長 あたし、いっちばーん！

町の人1 にばーん！
町の人2 さんばーん！
町長 よんばーん！
みんな ちよっと、ズルい！
革命軍1 みんな、行くわよ！
残りのみんな おう！

みんな、地下神殿にかけこんでいく。

S 6

地下神殿

ナゾの美女 オーホッホッホッ！ あたくしはこの地下神殿を守るナゾの美女。ど
うやら五百年ぶりに神殿の入り口が開いたようね。いいわ、欲にかられ
た人間たちに、ビーシビシ、ビーシビシお仕置きをしてやるんだから。
見ーてらっしゃい！ オーホッホッホッ！
町の人たち ランプ、ランプ、ランプー！

ナゾの美女、町の人たちにつき飛ばされる。

町長 あれ、いま、なんかぶつかつた？
町の人1 さあ、知らない。
副町長 それよりランプよ！ ランプはどこ？
町の人2 ないです。
町長 うーん、金銀財宝ならそのへんにザックザクしてるんだけどねえ。
町の人たち ザックザクしてるねえ。
少女 あ、きれいな宝石！
副町長 ダメよ！ どーん！
少女 きゃー！
町の人1 なにするの！？
副町長 バカね。こういうのには、たいてい魔法がかかって、取った瞬間ワナ
が動き出したり、おそろしい魔物が出てきちゃったりするのよ。
町の人たち え、コワイ！
町長 魔法のランプを手に入れられるのは、こういうのにまどわされない、
副町長 わたしたちみたいなの、心のきれいな人たちだけなのよ。
町の人1 なるほどー。
町の人1 ごめんなさい。わたし、まちがってた。
町の人2 でっかいダイヤがほしいとか、
町の人1 金貨の山にとびこんで泳いでみたいとか、
町の人1・町の人2 もう二度と考えない。
少女 かんがえてたんだ。
副町長 分かればいいのよ。
町長 よーし、それじゃあ、ここから先は空飛ぶじゅうたんで…。

町の人たち え！？
少女 あるの！？

みんな、町長のまわりにあつまる。

副町長 さあ、飛べ！ じゅうたん！

シーン…。

町長 …なんちゃって。

町の人たち おい！

町の人2 もう、早く行こ！

町の人たち、かけ出していく。

ナゾの美女

オーホッホッホッホッ！ あたくしのしかけた金銀財宝のワナにも引つかからないとは。なかなかやるじゃないの、人間のくせに。五百年も経つと人間も少しはカシコクなるようね。いいわ、あたくしの本気を見せてさしあげましょう。明かりよ、消えろ！ 風よ、吹け！ 闇こそはそう、恐怖の源。さあ、恐れるがいい、人間どもめ！

ナゾの美女の力で、地下神殿は急にまっくらでアヤシげな雰囲気になる。その暗闇の中、革命軍、そーっと入ってくる。

革命軍2 ねえ、なんだかくらいよ、こわいよ、ヘンな風がふいてるよ。
革命軍1 本当ね。絵にかいたような、とてもアヤシげな雰囲気。

ピチャン…！

革命軍3 あ、首になにか冷たいものが！

革命軍1 出たわね、必殺、どこから落ちてきたのかわからない水滴攻撃。

革命軍2 知ってるわ。ただの水だと思って油断していると、実はおそろしい怪物のヨダシなんてことが…。

革命軍3 え、それって…。

革命軍たち ちよーたのしーっ！！

みんな、いきなり盛り上がる。

ナゾの美女、ぶったおれる。

革命軍1 やるじゃないの、地下神殿。

革命軍2 期待をうらぎらない作りだわ。

革命軍3 これはランプの方も、期待できるんじゃないですか、先生？

革命軍1 そうね、そうね。
革命軍2 ただねえ…。
革命軍たち うん…。

みんな、おおきくうなずく。

革命軍たち 広いなあ…。
革命軍1 グラフこんなあてもなく探し回ってたら、つかれちゃうわね。
革命軍2 地図とかないのかな？ 案内版みたいな。
革命軍3 うーん、ちょっとムードこわれるけど、あったら便利ね。
革命軍1 えー、そんなものが都合よく…。

革命軍2、ぶったおれたナゾの美女が持っていた地図に気がつく。

革命軍2 あ、あった。

革命軍たち え？

革命軍2 ほら、地下神殿案内マップだって。

革命軍1 ずいぶんオンボロだけど、なんとか分かるわね。

革命軍3 あ、ねえねえ、この祈りの間っていうところが、ライトアップされててきれいらしいよ。

革命軍2 え、ほんとに！？

革命軍1 よーし、それじゃあ、行ってみよう！

革命軍たち おーっ！

革命軍1 あのね、観光じゃないんだから…。

革命軍2 はやく、はやく！

革命軍たち、かけ出していく。

ナゾの美女 や、やるじゃない…。ここまで人間どもが進化していたとは…さすがのあたくしも読めなかったわ。だから最近のトレンドをさぐるのに、この神殿にもいたーねっとを入れようとあれほどお願いしたのに…。いいわ、こうなったら今度こそ本当の本気の本気で…。

姫さま・護衛隊長 ランプ、ランプ、ランプー！

姫さまと護衛隊長、出てきてナゾの美女をつき飛ばす。

ナゾの美女 本気の本気の本気で…。
町の人たち ランプ、ランプ、ランプー！

やっぱりナゾの美女はつき飛ばされる。

ナゾの美女 ものすっごい本気で…！

みんな ランプ、ランプ、ランプー！

やっぱりナゾの美女はつき飛ばされる。

ナゾの美女 ええーい、やかましいわー！

ドーン！…ゴゴゴゴ…。

町長 あれ、なんだろう、この地ひびき。

副町長 見て！通路の先が！

みんな 閉まっていく！

町の人1 ということは…。

町の人2 だいたい後ろから…。

みんな 水？

革命軍2 じゃないわ。

みんな 天井？

革命軍3 でもないよ。

ドカーン！

みんな 溶岩だーっ！

みんな、いっせいに走り出す。

革命軍1 わたしが先よー！

町長 なに言ってるんだよ、

町の人たち わたしよー！

革命軍2 ええい、

革命軍たち どきなさいよー！

革命軍、みんなを押しつけて今にも閉まりそうな通路をくぐる。

革命軍1 いっちばーん！

革命軍2 にばーん！

革命軍3 さんばーん！

少年 よんばーん！

通路はだんだんせまくなり、通るのがむずかしくなってくる。

町の人1 ごばん！

町の人2 ろっくばんっ！

少女 ななばっ…！

副町長　はち！
町長　きゅ…！
残りのみんな　きゃーっ！

全員、なんとかすべりこむ。

みんな　ギリギリセーフ！

S 7　地下神殿・神の泉

そこは、なんだかすごそうな大きな扉の前。

みんな　ここは…？

町の人1　でっかい扉…。

町の人2　そしてフケありな紋章…。

革命軍1　来たわね、ここが…。

革命軍3　観光名所、祈りの間？

みんな　ちがう。

革リーダー　魔神のランプのありかよ。

そのとき、とっぜん少女がバツタリとたおれる。

町の人1　あれ、(少女役の子の名前) どうしたの？

少女はとても苦しそうである。

少年　…水だ。

みんな　え？

少年　(少女役の子の名前)、ずっと水を飲んでないんだよ。みんながケンカしなくてすむように、ガマンするんだって。それなのに…。

副町長　どうしよう。このままじゃ…。

革命軍2　戻っている時間はないわ。となると…。

町の人2　最後の希望は…。

革リーダー、扉の前に進み出る。

革リーダー　ひらけ、ゴマ！

すると、そのなんだかすごそうな扉は、ゆっくりと開き始める。

町長　開いた…。

中からは、水の流れる音が聞こえてくる。

姫さま

水…？

みると、大きな部屋のまんなか大きな池があり、そこから水があふれている。

少年

水だ！

かけようとする少年。

革リーダー

待って！

少年

なんだよ、なんで止めるんだよ！

革リーダー

その水を飲んだら、ランプは手に入らないわよ。

町の人1

なに言ってるの。

町の人2

それも言い伝え？

革リーダー

いいえ。そこに書いてあるわ。

池の横には看板があり、そこに文字が書いてある。

みんな

お水かランプ、好きな方をえらんでね♡

少女

あなたのかわいい神殿の女神より♪

革命軍1

あ、起きた。

革命軍2

こんな大変な時に…。

副町長

ほんっと、空気よめない大人っているのよね。

革リーダー

それに、言い伝えにもあるわ。昔、この水をくんだ人は、自分も水になって、砂漠にすいこまれて消えちゃったって。

みんな、びっくり。

町の人1

体がとけちゃうってこと？

町の人2

なにそれ、こわい！

革リーダー

それを覚悟で水をくむか、魔神のランプを手に入れるか…。

町長

それって悩むまでもくない？

副町長

ようするに、魔神に水を出してもらえばいいんでしょう？

護衛隊長

そうはいかないのよ。

革命軍3

なんで？

護衛隊長

魔神はどんな願いもかなえてくれるわけじゃないの。

革リーダー

魔神がくれるのはただ一つ…。

ナゾの美女、あらため神殿の女神・オイル、出てくる。

オイル
みんな
大いなる力、それだけです。
なにか出てきた！

オイル
みんな
わたしは、この神殿を守る女神…。
出た！ 自称・かわいい女神！

オイル
革命軍1
はい♡
そう、あなたがあの看板を書いた空気のよめない人ね？

革命軍2
オイル
よっぽど自分に自信があるようね。
なにか…言ったかしら？

オイル、革命軍1・2の頭をしめあげる。

二人
イタイ、イタイ、イタイ！

オイル
二人
無限の自信くらい持ってなくては、今どき女神なんてできませんわ。
すいませんでした。

みんな
…コワイ。

が、革命軍3、まったく空気を読まずに、

革命軍3
え、なにこれ、こいつが魔神？ なんかイメージと全然ちがうじゃん。

革命軍2
(革命軍3役の子の名前)…。

革命軍3
ジーニーじゃないの、ジーニー？ 期待してたのに。

町長
やめなっぺ。

オイル
いいえ、わたしの名前は、オイル。魔神ではなくて、女神です。

革命軍3
おいる？ ヘンな名前。あ、わかった。ランプの精だから、油で、オイル
なんだ。ヘンなの。

(革命軍3役の子の名前)。

みんな
オイル、革命軍3の頭をしめあげる。

革命軍3
イタタタ！

オイル
なにか…おっしゃったかしら？

町の人1
おこってる、めっちゃおこってる。

革命軍3
なんでもありません…。

みんな、オイルからびみょーに離れながら、

町長
で、話もどすけど、大いなる力って、どういうこと？

オイル
この泉は、神の泉。ここからわき出るのは、水か、ランプの力。ランプの力を手に入れたものは、その力でこの国を緑のオアシスに変えることも、世界一の大都市にすることもできるでしょう。それは力をどう使うかによります。

町の人1 どゆこと？

オイル 力のあるところに、人は集まります。人が集まればそこに街が生まれ、国が生まれます。その国をどうするかは、あなた次第。これは、魔法ではないのです。

町の人2 えーっと、つまり？

革命軍1 ようするに、金と権力はあげるから、あとは好きにしなさいってことよ。夢がない…。

町長 一瞬でどーん、ばーん！とかじゃないの？ 女神のくせに？

オイルのビリビリ攻撃！

副町長 地道な努力ってだるいのよね。

オイルの爆発攻撃！

革命軍1 でも、あたしたち的には、本来の目的は達成されるっていうか、五年先、十年先を考えたら、その方がいいかも。

少年 五年先って、(少女役の子の名前) どうする気だよ！

みんな あ…。

少女 あ…。

少女、思い出したようにまた倒れる。

少年 今すぐ水を飲ませなきゃ！

姫さま、オイルの前に出てくる。

姫さま あの、もし水を選んだら、ここからどれだけくんでもいいんですか？

オイル あなたの手のひらに、すぐえるだけ。

姫さま 手のひら？

革命軍2 手のひらいっぱいの水。たったそれだけ？

オイル ……。

革命軍2 たったそれだけで、体がとけてなくなっちゃうの？

オイル それはあなた方の祈りによります。

姫さま 祈り？

オイル あなたがもし、それを願うなら…あなたの手は、きっと多くの命を救うでしょう。

革命軍3 そんなの願うヤツ、いるかよ。

オイル いますよ。

姫さま え？

オイル それを願った人が。だからここに、大きな国ができたんですもの。……。

姫さま

オイル 豊かではありませんが、とても大きな国が。

姫さま、オイルの言葉の意味を考える。

オイル 火の力と水の力…。あなたはだれのために、何を祈りますか？

……。

少女 いいんです、姫さま…。わたしのことより、みんなのために…。
（少女役の子の名前）…。

姫さまが考えている間、みんなもさわぎはじめ。

革命軍1 ランプよ。ランプにしましょ。（少女役の子の名前）は急いで連れて帰ってさ。

少年 ておくれになったらどうするんだよ。

革命軍2 手のひらいっぱいだよ。それじゃ、（少女役の子の名前）を助けるのにも足りないかもしれないじゃん。

革命軍3 でも魔神の力でも、すぐに水が手に入るわけじゃないんでしょ。

革命軍1 そりゃそうだけど。

町長 だったらさ、すごいがんばって、なんとかたくさん水をくんで…。

副町長 こう、くみあげないでさ、水から手を出さずにバシャバシャやったら、いっぱいにかウントされないとか…。

二人、オイルの視線に気づく。

町長・副町長 あ、ダメですか。

革命軍1 それに、だれがくむの？

町の人1 とけて消えちゃうかもしれないんだよ？

革命軍3 でもそれは願い次第って言ってたし、

町の人2 じゃ、あんたやる？

革命軍3 んー…やめとく。

革命軍1 でしょ？

革命軍2 やっぱ可能性があるとしたら…。

みんな、姫さまを見る。

護衛隊長 ちょっと、なに言ってるのよ！

革命軍1 いやあ、なんか…。

町の人1 姫さまだし、お祈りもしてきましたし。

町の人2 ひよっとしたらだいじょうぶかも…なんてね。

みんな ダメかあ。

ジッと考えていた姫さま、顔を上げる。

姫さま ううん、わたし、やる。

護衛隊長 姫さま！

姫さま これで決着をつけようって言ったの、わたしだから。選ぶ権利、あると思わない？

護衛隊長 いけません、姫さま。それならわたしがやります。わたしは護衛隊ですから。お守りするのが仕事ですから。

姫さま (護衛隊長役の子の名前)。

護衛隊長 お願い、(姫さま役の子の名前)。あの日の約束を、守らせて。

今度は革リーダーが進み出てくる。

革リーダー ダメよ。わたしがやる。

革命軍たち リーダー！

革リーダー わたしだってあの日の約束、忘れたわけじゃないんだから。

護衛隊長 (革リーダー役の子の名前)…。

革リーダー (護衛隊長に)わたし、この国を出てみて気がついたんだ。世界には、本当にいろんなものがあるって、本当にたくさん生き方がある。わたしたちがずっとやってきたことは、姫さまを守ることじゃなくて、閉じ込めることだったんじゃないかって。一つの生き方にしぼられて、何もしちゃいけないっていうのは、生きるなっていうのに等しいことなんだよ。だからわたし、もどってきたの。姫さまをこの国から連れ出すために。革命軍の名前を借りて。

革命軍たち そうだったのか…。

革命軍一 意外にドラマがあったのね、わたしたち。

革リーダー だから、今度はあなたが連れて行ってあげて。わたしの代わりに、外の世界へ。

革命軍三 あのう…：なんだか水をえらぶって方向で話がまとまりつつありますが、ねんのため、ランプ派の人は…あ、いない。失礼しました。

護衛隊長 ムリだよ、わたしには。わたしには、いろんな生き方をためすことなんてできない。わたしには、これしかできない。だから、わたしが…。

革リーダー いいえ、わたしが。

護衛隊長 ダメよ、わたしが。

革リーダー いいえ、わたしが。

護衛隊長 ダメよ、わたしが。

革リーダー いいえ。

護衛隊長 ダメよ。

革リーダー わたしが。

護衛隊長 わたしが。

みんな どっちじゃーい！

もりあがる二人の間に、姫さまが割って入る。

姫さま　　ちょーっと待ったあっ！

護衛隊長・革リーダー　　はい？

姫さま　　あのさ、二人でもりあがんでくれる？ わたしを守ろうとしてくれるのはうれしいんだけどさ、結局二人だけでもりあがっちゃって、わたし、おいてけぼりじゃない。

護衛隊長・革リーダー　　あ…。

姫さま　　わたしがやる。

みんな　　姫さま！

姫さま　　だれにもなんにも文句は言わせない。これはわたしが選んで、わたしが決めたの。

護衛隊長　　…。

姫さま　　ねえ、(護衛隊長役の子の名前)。(革リーダー役の子の名前)の言うとお

りだよ。生きるっていうのは、何かをするってことで、何かをしたら、時には傷ついたり悲しんだりするものなんだよ。きっとそれはしかたのないことなんだよ。

護衛隊長　　だからわたしは…！

姫さま　　だから守るっていうのは、傷つかないように何もさせないことじゃなくて、傷ついたり悲しんだりしたときに、そばにいてあげることじゃないのかな。

護衛隊長　　…。

姫さま　　つらい思いをさせないことじゃなくて、いっしょに泣いてあげることじゃないのかな。

姫さまは、オイルの方をまっすぐ見て、

姫さま　　ねえ、女神様。

オイル　　なんです。

姫さま　　この手にくめるだけ、って言ったよね。

オイル　　ええ。

姫さま　　この手にくめれば、どれだけの量でもかまわないのよね。

オイル　　ええ。

姫さま　　だったら…。

オイル　　…。

姫さま　　だったら、わたしは祈ります。この体が、大きな河になるように。わたしのこの手が、この国の、ううん、この国よりもっと広く、この世界のすみずみまで届くほどに、大きな大きな河になるように。もう二度と、だれもかわくことのない、そんな国になるように。…かなうかな、わたしの、この願い。

オイル　　ええ、もちろん。

オイルは、姫さまを池の方へと連れていく。

オイル

さあ、どうぞ。

姫さま、水をくんで、少女のところを持っていく。

姫さま

(少女役の子の名前)。

少女

……。

姫さま

(少女役の子の名前)の言った通りだったよ。だれかのために祈ると、なんだか大きくなったような気がするね。

少女

姫さま…。

姫さま

これからは、あなたがわたしの代わりに祈ってね。

少年

姫さま、ありがとう。

姫さま、少女に水を飲ませる。

姫さま

みんな、これまでわたしのことを守ってくれてありがとう。これからは、わたしがみんなのことを守るから。いつでもそばにいるからね。

護衛隊長

(姫さま役の子の名前)。

姫さま

バイバイ。

姫さまとオイルは、消えていく。

S 8

数年後・町の中

町長

そうして、姫さまは小さな水のしずくになって、砂漠の砂の中に消えていきました。

副町長

そこからは、やがて豊かな水が、コンコンとわきだしてきました。

町の人1

その水は、やがて小さな流れになり、それはやがて小さな川になり、

町の人2

池ができ、湖が生まれ、やがて国中に広がる、大きな河になりました。

革命軍1

砂漠の国は、緑の国になり、たくさんの人も集まる、大きな国になりました。

革命軍2

そして大きな河になった姫さまと、魔神のランプのお話は、たくさんの人に語り継がれ、

革命軍3

そのたくさんの人とともに、外の世界へ、

少年

世界の隅々まで広がっていきました。

少女

姫さまの祈りは、世界中の人に広がっていったのです。

護衛隊長は町の入り口に立って、緑あふれる世界を見つめている。

護衛隊長

姫さま、聞こえますか？ 町の人たちの、幸せそうな笑い声。あなたのおかげで、この国は、とても幸せな国になりました。だれかを守る、護衛隊の仕事もなくなりました。だからわたしは、ちょっとだけ、旅をし

てみようと思っています。この国を出て、外の世界へ。あなたのいない
この世界で、新しい生き方を、探してみようと思います。

革リーダー
(護衛隊長役の子の名前)、行くよ！

革リーダーが護衛隊長を迎えに来る。

護衛隊長
それじゃ、行ってきます！

二人は、元気にかけ出していく。

おしまひ